

モバイルゲートウェイ連携 株式会社ジャフコ

携帯端末で投資情報管理システムに手軽にアクセス DataSpiderとmoconaviがセキュアで利便性高いシステムを実現

日本のベンチャーキャピタルの先駆けであり最大手でもある株式会社ジャフコでは、投資先の発掘から上場やM&Aまで一連の投資フローを管理する投資情報管理システムを外出先から利用できるようにするため、モバイルゲートウェイを開発しました。このゲートウェイには株式会社レコモットの「moconavi」とDataSpiderが活用され、セキュアで高品質なシステムを短期間・低コストで構築するのに役立っています。

課 題

企業内システムとの連携が可能なモバイル専用システムを開発するには費用がかかる

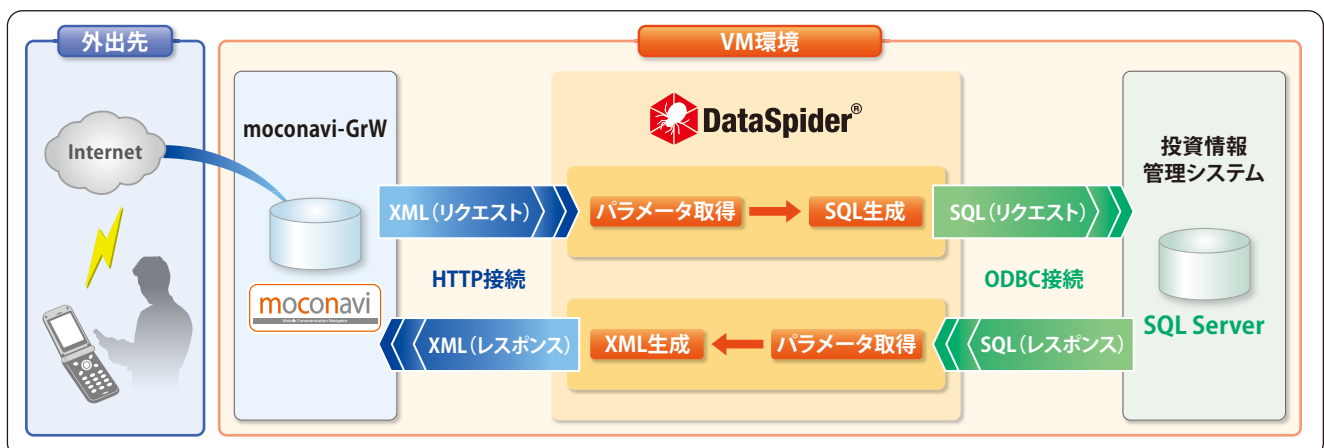
解 決

DataSpiderとmoconaviの2つのツールを活用し、
開発コストの圧縮とセキュアで利便性の高いシステムを実現

外出先から投資情報管理システムへのモバイルアクセスを可能に

株式会社ジャフコは、「プライベート・エクイティを通じた価値創造」を経営理念に掲げ、ファンドの設立／運営から、ベンチャー企業をはじめとする未上場企業への投資、さらに投資先への経営支援まで幅広い事業を手掛けています。そうした投資先との接点を持つ投資運用部門では、投資先企業の発掘、投資後の支援などの一連の流れに対応した投資情報管理システムを使って、業務の効率化

を図っています。投資情報管理システムには高いセキュリティが不可欠ですが、一方で外出先でも必要ときに必要な情報を閲覧することが求められていました。利便性とセキュリティを両立できる高い品質を実現しつつ、開発に要する期間やコストを抑えるため、レコモットの「moconavi-CRM」とDataSpiderを活用したモバイルゲートウェイが開発されました。



お客様情報

 **株式会社ジャフコ** www.jafco.co.jp

■ 本 社	東京都千代田区丸の内1-8-2	■ 代表者	取締役社長 豊貴伸一	■ 設 立	1973年4月
■ 資本金	332億5100万円 (2010年3月期)	■ 従業員	216名 (連結、2010年3月末現在)	■ 売上高	166億6700万円 (2010年3月期)

株式会社ジャフコ

Webシステムを携帯端末に対応させる際の数多くの課題

投資情報管理システムは、ジャフコの投資関連業務を支援する基幹システムです。2001年、勘定系システムと同一環境上で稼働していた機能をオープン環境に移管する形で構築し、現在まで改良を加えながら使い続けています。このシステムは高いセキュリティが求められます。一方で、投資検討対象の発掘段階で外交の合間に情報を確認したいといった、モバイルでの情報活用も現場からは求められていました。投資情報管理システムはPC利用を前提とした技術で構築しており、携帯端末に対応した仕組みを新規に構築することは可能ですが、プログラムの変更を伴うため大掛かりな開発になりがちです。「モバイルによる新しい仕組みをスクラッチで開発するとすれば、品質への不安が生じ、そ

れを解消するためのテストが発生し、時間もコストも必要になります。」と、ジャフコ システム管理部 アシスタントマネージャーの横田将之氏は言います。「弊社はユーザー数も多くなく、システム開発への投資は社内承認の根拠となる投資対効果 (ROI) の判断がシビアです。QCDの課題を克服しつつ、いかにしてモバイル機能を提供するかが大きな課題でした。」



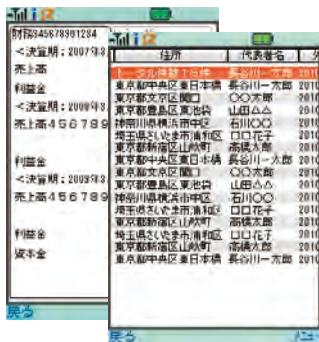
株式会社ジャフコ
システム管理部
アシスタントマネージャー
横田将之氏

モバイルへのデータ提供にDataSpider、画面にmoconavi、2つのパッケージを活用

モバイルでの情報活用を見据えて、以前から横田氏はパッケージの活用を考えていました。携帯端末アプリから企業内システムと連携でき、かつ端末上にデータを残さず、通信の暗号化も可能な製品として、株式会社レコモットの携帯端末用CRM連携ソリューション「moconavi-CRM」(以下moconavi)に注目していたそうです。そして、もう一つの課題が企業内システムとのデータ連携仕様の構築です。横田氏は、こう言います。「以前モバイルサイトの開発を経験したことがありますが、このときは稼働済みのシステムから大半のビジネスロジックは流用できま

したが、ユーザが閲覧するViewのプログラムの大半は携帯端末向けのView生成を行うベンダ向けにXMLへ書き換えました。今回は要件や状況は異なりますが、当時Viewの作成にはXML仕様の調整からリリースまで相応の工数が必要となりました。そこで今回は、投資情報管理システムからモバイルへデータ提供する部分にデータ連携ツールを活用することを考えました。「いくつかの製品候補から選定の結果、選ばれたのがDataSpiderでした。「モバイルゲートウェイの開発には、DataSpiderとmoconaviこの2つのパッケージを使うのが最良の手段だと考えました。」(横田氏)

実質1.5カ月の短期間で開発・テストを完了、今後はシステム間のハブとして活用を検討



moconaviは専用の携帯端末アプリを利用するため、操作性が高く、また端末にデータを残さない上に、通信経路の暗号化やデータ圧縮も可能。その背後で、投資情報管理システムとの間を結ぶ役割を果たしているのがDataSpiderです。

DataSpiderはブリッジとして、moconaviと投資情報管理システムの間を結ぶ役割を果たしています。具体的には、端末からmoconaviを通じてXMLリクエストを受け取って投資情報管理システムへのSQLを発行し、その返却パラメータを再びXMLにパッケージしてmoconaviに送り返す、といった機能を担っています。モバイルゲートウェイの開発プロジェクトは、約4カ月という短期間で完了しました。しかも、そ

の大半は要件定義に費やしており、正味の開発はさらに短い期間だったといます。「moconaviで表示パターン毎にXML定義が用意されているため、短期間での開発ができました。実質的には、開発に要したのは1カ月強です。今回のような組み合わせは、スクラッチ開発と比べるとQCD全てにおいて優れているといえるでしょう。」と横田氏は言います。現在、完成したモバイルゲートウェイは、ジャフコの主に投資運用部門担当者に活用され、外出先での情報活用を進めているそうです。そして今後、横田氏はモバイルゲートウェイのさらなる機能強化だけでなく、DataSpiderを他の用途にも活用することを検討し始めています。「直近では、ファイル系やDB系アダプタの利用による、自社システムとSaaS間のノンプログラミング連携を検討しています。また、将来的には基幹システムを再構築する際のシステム間ハブとして活用することで、データ転送に必要なAPI開発を低減し、コスト圧縮が実現できると考えています。」(横田氏)



「moconavi」シリーズは株式会社レコモットの製品群です。本事例で紹介した「moconavi-CRM」のほか、グループウェア連携を行う「moconavi-GrW」など各種用途に応じた製品が用意されています。オンラインでの操作を前提とした携帯端末アプリの活用により快適な操作と端末にデータを残さぬセキュリティを実現したほか、ID・パスワードに加えて端末識別番号やSIMなどを使った多重認証に対応、また紛失時にはサーバ側でアクセス制御が可能、通信経路の暗号化にも対応するなど、moconaviシリーズは企業での利用を想定した使い勝手とセキュリティとの両立が特徴です。

APPRESSO、APPRESSO ロゴ、DataSpider、DataSpider マーク Servista、Servista ロゴ、アプレッソ、サービスタ、データスパイダーは、株式会社アプレッソの商標または登録商標です。その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の商標または、登録商標です。この事例リーフレットは、2010年11月に実施した取材内容に基づいて作成しています。



開発・販売元
株式会社アプレッソ

〒112-0014 東京都文京区関口1-20-10 住友不動産江戸川橋駅前ビル2F

TEL.03-4321-1111 (代表) FAX.03-4321-1112
www.appresso.com

[お問い合わせはこちら](#)